統一闘争

新年の決意

――語り合った人びと――

松原　直吉　港務指導部
甲斐　俊久　四山指導部
早田　正次　宮浦指導部
山本恵美子　主婦会三川
東　敬子　主婦会本所
平川　勝俊　本所指導部
木下　八郎　三川指導部
小川　紘志　右　同
山下書記次長　司会

▼敬称はすべて省略させていただきました。また紹介順序は、その夜の席順に従いました。

なお語り合ったのは、十二月十六日の夜でした。紙面のつごうから、せっかく語り合っていただいたのを大幅に割愛せざるを得なかったことをおわびしておきます。

――編集部

★五千円の期末手当をとったというのに、七五年度は一方五百六十身が、石炭見直しという情勢に甘い幻想をもったところに、もとも働制が年ごとに広がっているというのに、こっちは早出・残業でますます労働時間が延長されていくばかり。石炭見直しどころの話ではなかですよ。

長いたたかいの歴史を経験してきているのに、ですよ。

しかもそれに、労働者が何の抵抗もしない。まさに労働者自身がその体と命を守るべき権利を、資本の前に投げやっているようなもんです。春闘を闘うにも、いうなれば、自分たちのそんな足もとのんな行動を積み重ねたものの、上がったのは物価だけで、賃金や厚生年金などはさして上がらず。それに災害の続発。命まで次つぎに奪われている。命をうしなっては賃金も労働条件もないのだし、とかく高温箇所なども見すごしていくあまい姿勢から、命までも棄てることになりかねず、それでは最低です。もっと保安にこそ、きびしいかまえをとるべきだと思います。

木下さん

小川さん

おかず代が一日七百円也

山本　坑外で働く主人の給料では足りず、私も働きに出かけているのですけど、一日のおかず代を七百円にきりつめています。そうしないと、五人家族がたべていけないのですよ。

それもうちにはばあちゃんがいて、年寄りのお覚で買いものから炊事までひき受けてくれているからできますことで、私には七百円が覆いかぶさってくるのは必至です。

今年はいよいよ、大爆発裁判闘争も、本格的段階にはいりました。会社の責任追及が、具体的事実をつきつけながらすすめられていくのです。さきの公判での房村早大教授の証言について、会社側の反対尋問が予定されています。これまで裁判闘争に寄せられました組合員・家族、及び全国の皆様のご協力に感謝するとともに、今後倍旧のご支援で御撞を願い、新年のあいさつとします。

東さん

どう闘うか？

山下　さて、春闘に向けて

ちの家も小されいかも知れません。

でも、そのためには老後の生活設計を放棄し、病気への準備も削ってやっとつくろっている生活実態なんですよ。賃金とは本来、そんなことにちゃんとそなえておくことができるものであるべきです。ちょっと病気でもしますと、そんな家庭生活はストーンとぶちこわれる。

私は去年交通事故でしばらく会社を休みましたところが、賃金は減る。停年を間近かにしているのに、退職金も薄っぺらになり、退職後の住まいへの夢がいっぺんに消えてなくなりました。もう、なるでつなれ、といった気持です。

御礼

先ごろ逝去された故・広松信夫さんご遺族（妻の清香さんほか）から、香典のお返しにかえて、多額のカンパをいただきました。

また谷端一信前書記次長からも母堂フサさんご逝去の折、右のカンパをいただいております。心から御礼申し上げます。

三池炭鉱労仂組合

みんないっしょにたたかわんならダメだ。そこでこそ、資本を追いつめることもできる。三池も、よっぽど考えんとでけんですよ。

山下　どうもありがとうございました。さらに話し合いを深め、前進することを誓って終りといたします。

厳しい情勢にそなえ闘う体制づくりを

組合長　古賀春吉

新年を迎えました。おめでとうございます。本年こそ私たち働く者、勤労者、汗を流すすべての人たちがむくわれる、喜ばしやすい生活、未来に希望がもてる社会に、政治の流れを変えながら一歩でも近づきたいものです。

ご承知の通り情勢は大変きびしく、昨年十二月きまった酒、タバコの値上げをはじめ、今次消費者麦価や郵便料金の値上げのほか、国鉄旅客運賃の六〇パーセント、一〇パーセントに過ぎませんでした。

政府と日経連は、七五春闘に先だって、その率十五パーセントの賃上げ許容限界をガイド・ポストにすることをきめました。私たちの闘いの結果は、それより二パーセント低かったことになります。労働者階級の力量が十分に発揮されず、敗北に終ったことを意味します。

スタグフレーションの時代にはいった今日、政府と独占資本は、金権によって政府と癒着し、大企業本位の経済政策をおしすすめるだけに止まらず、七五春闘では賃金の問題についてまでも一体化しながら、私たちの要求を抑圧してきました。

日本独占資本はいま「企業危機」を強く叫んでいます。意図するところは、今後も独占価格をできるだけつり上げ、人件費の削減、福祉の後退、公共料金の負担増など押しつけ、この面からも大衆収奪を強めようとしています。

政府・独占資本は、「国、地方自治体の財政の危機」の問題を取り上げ、大衆に対するインフレ収奪をいっそう強め、勤労大衆の賃金抑制に拍車をかけ、雇用危機を口実に組合に揺さぶりをかけつつ、独占資本の利益擁護と、その支配体制の防衛をつらぬき通すこと以外ではありません。

今年は、きたる四、五月ごろ国会解散の予想もあり、この選挙戦で私たちは敗北することを許されません。もし敗北したら、このスタグフレーション下、私たちの上にいっそうの生活不安・雇用不安をかぶさってくるのは必至です。

今年はいよいよ、大爆発裁判闘争も、本格的段階にはいりました。会社の責任追及が、具体的事実をつきつけながらすすめられていくのです。さきの公判での房村早大教授の証言について、会社側の反対尋問が予定されています。これまで裁判闘争に寄せられました組合員・家族、及び全国の皆様のご協力に感謝するとともに、今後倍旧のご支援で御撞を願い、新年のあいさつとします。

このようにきびしい情勢下、七六春闘もまた、七五春闘にもまして、私たちに決意を求めています。一日も早く、闘う体制づくりを急がねばなりません。

その上炭労としては、石炭政策闘争があり、保安があり、しかもそれは緊急性をもっています。とくにいま「石炭見直し」論を背景に、炭鉱で重大災害が頻発しているとき、私たちはさらに保安闘争を強めなければなりません。

闘いの教訓学びつつ婦人の地位の向上へ

主婦会会長　島文枝

明けまして、おめでとうございます。

一九七六年の年頭にあたり、静かに主婦会運動の一年間をかえり見ますと、去年もまた高物価・インフレ・不況による生活の苦しみがあり、また石炭見直し政策にもかかわらず、三池ではもとより砲内、万宇、砂川、高島の各炭鉱で重大災害がくり返され、不安がいっそう深刻化した年でありました。

田中内閣に代って登場した三木内閣は、対話と協調の美名のもとに、革新勢力の分断・抱きこみ政策の攻撃をかけてきています。しかし結果は、三木自民党内閣の政治的、経済的、社会的危機を深めるばかりです。

このような中にあって、生活と権利、平和を守るために、地域住民はもとより、多くの働く仲間と連帯を深め、団結の輪を広げなければ――と、春闘では一五パーセントのガイドラインを破るよう呼びかけ、統一地方選挙にのぞんでは、政治を私たちの手にとりもどそうと、家族ぐるみ統一行動に積極的に取り組んでまいりました。

その中で、破局にきた資本主義体制を立て直そうとする政府の大企業本位の政策は一段と強まり、酒にたばこ、郵便料金、消費者麦価などの値上げに見られるように、地方自治体の危機を口実に、重税、福祉財政切り下げなど、次つぎに働く者を犠牲にする政策をおしだしています。

いまこそ認識を新たにして、政治の矛盾を見、具体的な闘いを組む努力をしなければならない、と思っています。

昨年はとくに国際婦人年として「平等・発展・平和」の目標をかかげ、婦人の地位の向上のため活動を積みあげたことは周知のことですが、婦人自からの権利意識がまだまだ足りなかったのではないでしょうか。

去年にひき続き、不況を勤労国民の犠牲によって乗り切るための合理化攻撃は、婦人にいっそうひどいしわよせとなるものと見られます。主としてこれまで、一時帰休、待機、首切りの対象になり、失業者の五六パーセントが婦人と高年令者層だといわれているくらいです。

このように見てきますと、今年の闘いの課題はヤマ積していますが、私たちはとくに婦人の立場から、男女差別撤廃、婦人の地位の向上を目指し、統一行動へより積極的に参加することを決意したいと思っております。

ともあれ、新年には名実ともにめでたい年、心からよろこび合える年を一日も早く迎えるように、主婦会もまた、昨年秋スト権奪還の闘いに結集した公労協労働者にまなび、同時に主婦会自からの二十有余年の歩みの教訓にまなび、家族ぐるみでつき進む闘いの道をともに手をとって歩き続けていこうではありませんか。

この際去る一年間、三池主婦会の闘いに、常に暖い励ましとご支援をいただきました全国の多くの同志の方々に、心より感謝を申し上げますとともに、一九七六年もまた、決意を新たにして闘いますことを、固くお誓い申し上げます。

新年のあいさつ